

# 興福寺一乗院跡の調査

## —第393次

### はじめに

今回の調査は、奈良地方裁判所庁舎建て替えにともない実施した。調査地の裁判所構内は、旧一乗院の跡地で、今回の調査は敷地の南西部に、それぞれ南北、東西に長い調査区(西区、東区)と、L字型の調査区の3箇所を設けておこなった。西区の一部は第317次調査西区と重複する。調査面積は合計144㎡、調査期間は2005年8月29日～9月21日である。

### 基本層序

西区は、敷地の西辺に位置し、南半はスロープとして整備されているため、地表面は南に行くほど低くなる。土層は現地表から、裁判所建設にともなうアスファルトおよび瓦礫を含む客土層、近代の瓦礫層、寛永期の火災にともなう焼土、灰褐色土、淡黄褐色土、鎌倉火災時の焼土、多量の瓦を含む茶褐色土、地山となる。西区南端は、スロープ整備時のコンクリート舗装を撤去した段階で既に地山まで到達しており、遺構面は残存していない。

東区は、調査区の北辺に現存しない近代の建物のコンクリート基礎が並行しており、標高90.6m付近まで造成土による攪乱がある。調査区西側で鎌倉期の焼土層を一部確認したが、大半は攪乱以下、黄褐色土層、地山となる。

### 検出遺構

検出した遺構は西区南半に集中する。

SX8955 西区中央、鎌倉期の焼土層上面で検出した、石

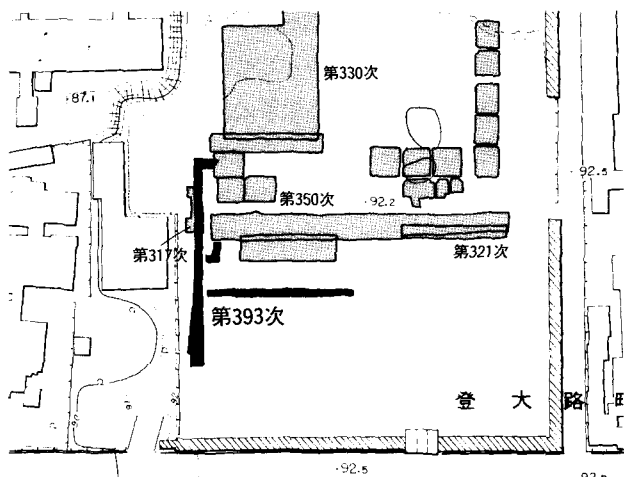


図151 第393次調査位置図

列および石溜まり。北端は人頭大の石を東西に並べ、北側に面をそろえる。

SD8956 西区南部で検出した東西溝。溝の底部には江戸時代の瓦が投棄される。

SX8957 SD8956の南で検出した石列および石溜まり。石の様相はSX8955に似るが、南北に配列すること、また層位的にSX8955よりも新しいことから、両者の関連性は低いと考えられる。また、両者共に調査区の東西に続く。  
(大林 潤)

### 出土遺物

土器 西区南部、鎌倉火災時の焼土層および茶褐色土より大量の鎌倉時代の土器が出土した。ほとんどが土師器の皿で法量は大小二種にはっきり分かれている。1、2が小型、4、5が大型に属する。ともに、底部から丸みをもって立ち上がる口縁部をもつものが主流で、口縁部は端部外側に端面をもつが内傾する三角形状にはなっていない。3のコースター形の皿は円板状の底部から口縁部を直接内方へ折り曲げるが、法量の縮小は顕著でない。また、6は外側へ張り出す高い高台をつけた大きな皿状の器である。器種として珍しいものであり、寺院内での特定用途に供する特注品とみる見解がある(小森俊寛・上村憲昭「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』3、京都市埋蔵文化財研究所、1996)。

図示したものの中では、2が平らな底部から直線的に口縁部が立ち上がる点でやや時代が下る可能性があるが、断ち割りした茶褐色土層に含まれている土器には全体として12世紀という年代を比定できる。なお、瓦器や須恵器はまったく共伴していない。  
(高橋克壽)

瓦磚類 出土した瓦磚類を表21に掲げた。主体をなすのは室町時代の瓦で、治承の大火以前の瓦は極めて少ない。又、鎌倉時代の瓦も少ないことから、多くは仁治2年(1241)の火災以降の瓦と言えよう。そのなかには、一乗院特有の瓦である「牡丹文」軒丸瓦も認められる。

(林 正憲)

### まとめ

調査開始前、第350次調査で検出した斜行溝SD7800の延長部分の検出が期待されたが、攪乱が推定深度よりも深く入り込み確認できなかった。西区で検出した遺構も、配管工事に伴う狭長な調査区であるため、遺構の広がりを確認するにはいたらなかった。  
(大林)

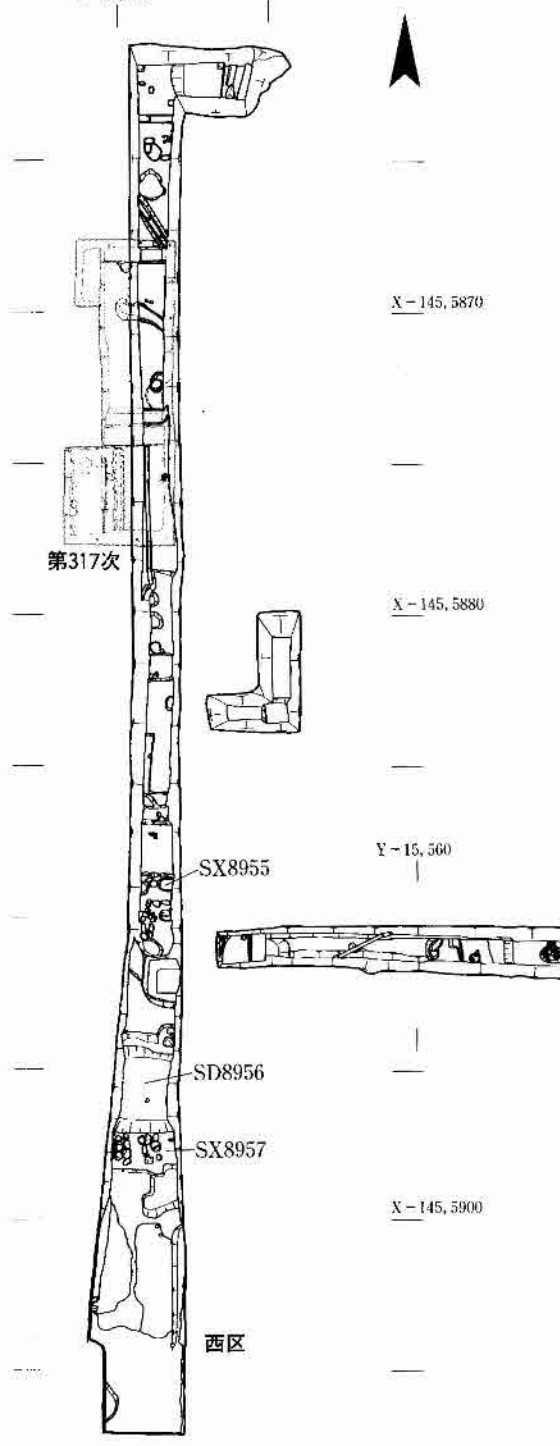


図153 第393次調査遺構平面図 1:250



図152 西区SX8955・SD8956・SX8957(北から)

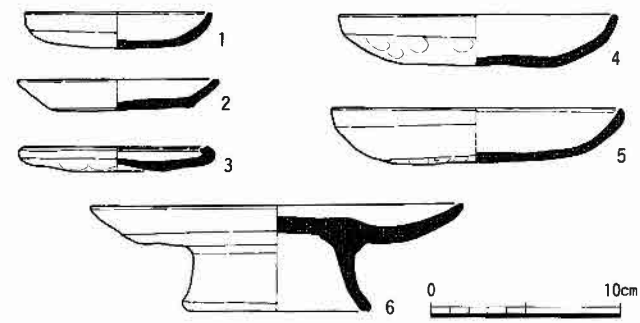


図154 第393次調査出土土器

表21 第393次調査出土瓦磚類集計表

軒丸瓦		軒平瓦	
型式	点数	型式	点数
6235	2	6667 A	1
6301 A	1	6682 D	1
平安	4	6732 E	1
古代	1	平安	3
巴(鎌倉)	3	古代	1
巴(室町)00	2	連珠文(鎌倉)	1
巴(室町前半)	2	鎌倉	1
巴(室町後半)	2	室町後半	9
巴(江戸前半)	3	小型軒平(中世)	1
巴(中近世)	1	江戸前半	4
牡丹文(室町?)	3	江戸後半	1
菊丸(江戸前半)	4	中近世	2
菊丸(江戸後半)	6	型式不明	1
小型菊丸(室町)	14		
小型菊丸(江戸)	1		
室町後半	1		
中世	7		
江戸前半	2		
江戸後半	1		
江戸	1		
中近世	3		
		軒平瓦計	27
		道具瓦	
		古代鬼瓦	1
		中近世鬼瓦	1
		面戸瓦	3
		割炭斗	4
		隅切平	3
		道具瓦	2
軒丸瓦計	64	道具瓦計	14
瓦	平瓦	磚他	凝灰岩
重量 144.8kg	338.7kg	3.2kg	24.8kg
点数 1004	2322	3	1